

次の実りのための 新基幹システム導入 「瑞穂プロジェクト」



外部環境は、雨が降り続いています。

しかし雨の時期こそ種をまき、その先に進む用意をする必要があります。

基幹システム更新にあたり、私たちも新しい挑戦をはじめます。

将来みずみずしい稲穂を収穫するために「瑞穂プロジェクト」をやり遂げます。

「瑞穂プロジェクト」の概要

「瑞穂プロジェクト」は、ヤスハラケミカル[※]のIT基幹システム構築のための特別プロジェクトの名称です。

新基幹システムでは、予算管理・生産管理・工程管理・原価管理・販売管理・購買管理・会計管理に加え、人事管理や経費管理など、企業活動に関するすべての数字や指標を統合し、一括管理する計画です。

平成23年4月1日からのシステム稼働をめざして、現在、着々と準備を進めています。

※名称の由来

当プロジェクトは、IT担当者だけでなく全社的なプロジェクトへと発展させたいという思いから、名称を社内公募しました。その結果「未来への種まき」というプロジェクトの狙いと合致し、覚えやすいことから、この名称が選ばれました。

新システム 概念図



「瑞穂プロジェクト」の目的

新基幹システムの導入計画は、既存システムの保守契約期限が迫ってきたことを直接のきっかけとしてスタートしました。

外部環境は今後も厳しさが増すことが予想されます。ヤスハラケミカルでは、こうした時代を乗り切っていくには経営の質を向上させることこそ重要と考えており、基幹システムの更新は、経営改革にも絶好のチャンスと捉えました。

そのため単純なシステム更新にとどまらず、システムの性能や安全性を高めるとともに、厳しい時代にもしっかりと利益を出すことのできる「筋肉質の経営体制」を構築するために、全ITシステムの統合化の道を選んだのです。

目的 1

経営改革のサポート

〈経営改革の狙い〉

- ムダのない経営 ● 原価低減
- 効率のよい経営 ● 業務効率の向上
● キャッシュフロー向上
- 経営判断の迅速化 ● 正確なデータによる判断
● タイムリーなデータ提供



〈プロジェクトの主要テーマ〉

- 在庫の最適化 ● 製造の見える化 ● 業務プロセスの効率化
- 原価管理強化 ● 債権債務管理強化
- 情報の見える化/見せる化(情報のビジュアル化)

目的 2

システムの安定運用

- サービス品質向上(障害対策、可用性、障害復旧、セキュリティ)
- 効率的運用体制 ● 業務手順の標準化
- ITスタッフ育成とスキルアップ

「瑞穂プロジェクト」の推進体制

瑞穂プロジェクトは、全社を挙げての総合的なプロジェクトという位置づけで準備を進めています。その推進体制の中心にプロジェクトオーナーとして安原社長を置き、プロジェクトマネージャー沖津常務とともにスピーディに経営判断を下すことで、プロジェクトを推進しています。

推進スタッフには、販売管理・購買管理・生産管理・品質

管理・原価管理・会計管理・人事管理など、各部門精鋭の若手社員をチームリーダーとして招集。社内横断的なチームリーダー会議として頻繁にミーティングを重ねています。

こうした活発なプロジェクト会議を通じて、部門間や事業所間での情報交流も活発になり、日常業務にも好影響を及ぼすという副次的な効果も生まれています。

新システム 構築スケジュール

